

次なる一手 その3

効率よく要領よく生きることが一番良いことでもないようで、その時々の人々のスタンスによってどうでも変わっていくことが多いと考えます。

例えば、これから送る国公立2次試験(前期試験・中期試験・後期試験)の願書ですが、今年のセンターテストは英語と数学が難化したので、できるだけ合格率の高い大学へと受験者が流れます。この中で、頑として第一志望にこだわって受験する学生が何人いるかが大きなカギとなります。

効率よく要領よく受験校をころころ変えることが、よい結果に結びつくこともあるでしょうが、今年は、この状況を逆に好機ととらえ、第一志望にこだわるのも一策かと考えております。最終的な合格は、あくまでセンター試験の全体に係る比率と二次試験の比率の状況があるので、一概には言えませんが、早く二次対策に心を決めることがまず何よりの方策であるといえましょう。

そのために築き上げてきた今までの取り組みを無にせず、やってきたことを愚直に積み上げることが第一の方策です。

結果として、背水の陣となるならそれも一つの選択であり、そのことで今までもよい結果をもたらして実例は数限りなくあるのです。受験勉強は、やがて大学入学後の学問研究にも連なるので、その道をいかに太くするかが肝要です。

エンジニアを目指すものは、エンジニアになるための道を歩くべきであり、法律家になるならその道を歩くべきでしょう。ただし、明らかに無謀な挑戦ではいけないわけであり、どの時点で自分の道として折り合いをつけることができるかが大切なことです。

モチベーションを維持しつつ、合格の可能性を探りながら、自分のこれからの太く長い道筋であることを肝に銘じながら、選択の結審をつけていってください。ただし、大学の名前とか、プライドとかで大学進学をする時代ではありません。セカンドスクールという手段や、3年時の編入という手段もあるのです。センター試験が良くなかったからといって大学進学という道筋を早くから諦めたり、自暴自棄になる必要は全くありません。

また、センターテストが良くできたからといってもう入学した気分になってる危険な罠に引っかからないようにしましょう。あくまでも、センターテストが終了しただけなのですから。

毎年のことですが、3月31日まで闘いは続くのです。途中でセンター併願大学に合格しても、終わりではありません。合格を心の勝手にして、最後まで戦い抜きましょう。

